

みみタロウ

日本語版

88号 2011年6月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
おまつし はま 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel/Fax : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp

本物の自分、みつけた！

今回みみタロウは、長浜市に住むフィリピン人の村山・ジェラルジンさんを訪ね、ご主人を亡くされた悲しみを乗り越え、三人の子どもさんを育てておられる中での思いをお話していただきました。



2年前、愛する夫を失い、16歳、15歳、10歳の子どもを一人で育てています。日本人の夫と結婚して5年後に家族で来日しました。ところが、夫は仕事が思うようにならず、鬱病になってしまいました。生きる気力を失ってしまった夫と日本に慣れていない子ども達を、精神的にも生活面でも私が全て支えなければならぬ状況になり、子どもの英語講師として働き始めました。私の仕事には笑顔が必要。無理にでも笑顔を作って職場に行き、やりきれない思いをびわ湖に向かって泣いてから、家のドアの前でまた笑顔を作って家族と向き合うといったつらい日々が5年間続きました。そしてさらに悲しいことに、夫が突然病気で亡くなってしまいました。どうしたらいいのかわからずただ茫然としている私に変わって、民生委員や周りの方々の手でお葬式が執り行われました。そんな中、心にしみたのは、近所の人たちの「外国人ではなくて仲間だよ」という優しい気持ち。本当に嬉しかったです。

夫の死後、慣れない外国で、私は母であり、そして父の役割も担うことになりましたが、心細くてももう頼る人はいません。でも子ども達にとっては、私だけが頼りです。私が泣くと子ども達も泣く。私があきらめたら子ども達も弱い心になってしまう。だから気持ちを強く持って前向きに生きていこう、子ども達のためにはフィリピンではなく、ここで頑張っていこうと思いました。

子ども達は、来日当初は学校になじめず苦労しましたが、それも乗り越え、今では友達に囲まれて、すっかり日本に慣れてきました。子ども時代はアイデンティティを「育つ大切な時期」なので、こども達には「ここがあなたの国。あなたは日本人」といつも言っています。しかし、日本人の夫を失った今、こども達に日本の文化を教えることのできる親はもういません。フィリピン人の私が教えることのできるのはフィリピン文化です。でも子ども達にとって、日本が生きている世界なので、とても難しい部分があります。ですから、時々子ども達に「お母さ

ん、ここは日本。フィリピンじゃないよ」と言われることもあります。そんな時、私は「ごめんね、お母さんは外国人だから。でもあなたがたは日本人だけどハーブだから二つの文化の良いところをとって、ミックスの気持ちを持ってほしいの」と言っています。大好きだった父親の死と反抗期がぶつかり、つらい思いを私にぶつけて「あんたなんかお母さんじゃない」と言って反発する娘に、「私は外国人で、最低のお母さんかもしれないけれど、私がお母さんよ。毎日頑張っているお母さんよ。」と言いつつ、あんな時期もありました。でも今では、子ども達も私を理解してくれるようになり、家族4人、頑張ったご褒美に年に一度旅行することを楽しみに、みんな節約しているんですよ。

いろんなことがあって、生きることはつらいこともうれしいことも抱え持つて行くことだとわかるようになりました。つらいことがあったからこそ、周りの人の温かさと、今あるもののありがたさを知りました。しんどい思いをしても仕事を続けてきたことが、今の私を支えてくれています。毎日頑張ってきたことで、自分で人生を乗り越えていける自信と、人の痛みが分かる心を持った一回り大きい本物の自分に出会うことができました。今はもう不安もなく、自分の手で人生を作り上げることの喜びを感じながら暮らしています。

つらい経験の中、学んだことは、人の繋がりのありがたさ。特に祖国から離れて暮らす私たち外国人には、周りの人とのつながりはとても大切です。みんな「寂しい」と言うけれど、内に閉じこもってしまわず、是非いろんな所に出かけて、心の扉を開けて友達をたくさん作りましょう。もしあなたが自分で外国人と思えば、「外人」になってしまうけど、外国人だと思わなければ、誰もあなたを特別扱いしないし、みんなと一緒に仲間になれますよ。多くの人との絆があれば安心して暮らせますね。言葉がわからないからと言ってあきらめたり、文化が違うからという理由で絆を終わりにしないで。人としてつながって、お互い助け合い、一緒に頑張っ生きていく中にも、お金の替えられない大切な幸せがあるのだと今の私は考えています。